

◎ 2 学年

	学級担任	副担任
機械工学科	谷本 修治	下村 信雄
電気情報工学科	井門 英司	矢野 潤
電子制御工学科	千葉 克夫	栗原 義武
生物応用化学科	野村真理子	西井 靖博
材料工学科	小山 一夫	日野 孝紀

1. 平成17年度運営目標・方針
 1. 1 本校の教育理念・教育目標の定着を図る。
 1. 2 学生に対する学習支援・生活指導・進路指導の充実を図る。
2. 平成17年度実施計画
 2. 1 8. 30登校を促す。

年間を通じて実施した。クラスにもよるが全体としては徹底はできなかった。
 2. 2 ショートホームルームや特別活動の充実を図る。
 - [1] ショートホームルーム・特別活動については年間計画を作成して計画的に実施する。

特別活動については、充実度はともかく、ある程度年間計画に基づいて実施した。だが、講演等を除いて全クラス統一的な内容での実施はできていない。

ショートホームルームについては、導入1年目ということもあり、担任と副担任が苦勞しながらの試行錯誤の1年であった。ショートホームルームの目的と内容および時間の検討が必要。
 - [2] 課外特別活動の計画・実施に協力する。

課外特別活動について教員間に共通認識が定着していたか疑問であり、課外特別活動実施に対する姿勢もそれぞれであったように思われる。
 2. 3 学生の授業出席の改善を図る。
 - [1] 毎日の出欠・遅刻・早退を確認し指導する。

実施した。
 - [2] 必要に応じて家庭や寮に連絡し学生指導の協力を依頼する。

実施した。8. 30登校指導では、特に寮生に関しては寮務委員会と担任とが連携して進める努力がなされた。
 2. 4 教室内の整理整頓や校内環境美化活動に取り組む。
 - [1] 学生の校内環境美化に対する意識を高める。

特別活動やショートホームルームの担任講話を通じて、学生の意識を高める努力がなされた。しかし、学生の意識が大いに高まったとは言い難い。
 - [2] 特活等を利用して校内環境美化活動を行う。

各クラス特別活動で校内環境美化活動を実施した。しかし、多くの学生の校内環境美化に対する姿勢が積極的となったとは言い難い。
 - [3] 清掃等により教室環境を整備する。

充分とは言えないが、担任と学生と一緒に清掃し、教室環境の整備に努力した。
 2. 5 学生の主体的な学習を促す。
 - [1] ショートホームルームや特別活動等を利用して予習・復習の習慣化への取り組みを行う。

ことあるごとに呼びかけたが、予習・復習の習慣化ができていない学生は少数。単に呼びかけるだけでなく、たとえば中学や一部の高校で実施されている学習計画帳を通じての指導のような具体的な対策が必要か。

- [2] アドバイザーと連携しつつ、担任と副担任が協力して、学生の学習意欲の増進および専門意識の涵養を目指す。

副担任による講話や指導、アドバイザーによる指導がなされた。担任以外からの指導がなされたという点においては意義があった。

- [3] 不得意科目克服のための一つの手段としてオフィスアワー利用を活性化する。
オフィスアワーの利用を呼びかけた。その効果については、教務委員会によって調査がなされた。

- [4] 授業の円滑かつ効果的実施のため、コース別授業を試みる数学科をはじめとして、各教科に協力する。

要請のあった件については、ある程度協力した。

- [5] 専門学科と協力して、学生の専門意識向上と社会性養成のための活動を検討し、可能なところから行事として実施する。

校外研修を実施した。担任にとっても学生を知るいい機会になったし、学生にとっても気分転換と友好の時間となったようである。

2. 6 アルバイトや身だしなみの指導に力を入れる。

- [1] 低学年教育委員会等において共通の指導基本方針を策定する。

指導基本方針を確認し意志統一を図って指導に臨んだ。身だしなみについては昨年度よりよくなった。アルバイトについてはアルバイト届の提出はほとんどなされていない。

2. 7 読書や活字に親しむ機会の増進を図る。

- [1] 図書館の利用促進指導等を通じて読書に対する意識を高める。

クラスごとに図書館利用統計をもとに図書館の利用を指導した。また、特別活動で図書館を利用した。クラスによっては、ショートホームルームで読書や朗読の時間をもうけ、学生の読書に対する意識を高める取り組みを行った。

2. 8 進路指導の充実を図る。

- [1] 必要に応じて学生との個人面談や保護者懇談を行う。

実施した。

2. 9 2学年担任会を開催する。

- [1] 随時開催し、情報交換を通じて、学生の学習および生活にかかわる問題について検討する。

低学年教育委員会を通じて実施した。

○ 総括的な評価と課題

各計画についてはそれぞれ具体的に何らかのことがなされた。しかし、その内容と効果については反省の余地が大いに残った。

17年度から2年生は学科ごとのクラス編成となったが、学科ごとのクラス編成となったことで生じた問題点もあるのではないだろうか。その意図されたものが充分達成されたかどうか検証する必要がある。

学科ごとのクラス編成以外、17年度には90分授業、副担任制、ショートホームルームや課外特別活動など新たな試みが導入されたが、それらの意図と目的についての共通認識が教員間と学生間にあったかどうか疑問であるし、それらが実際に実施される中で学年運営や学級運

営とも関連してさまざまな課題も生じた。それらが単なる思いつきに終わって形骸化してしまわぬよう、もう一度それらが目指すものについて確認し、この一年を検証してみる必要があるであろう。